

## 令和4年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

### 成果報告書

団 体 名	一般財団法人松本市芸術文化振興財団	
施 設 名	まつもと市民芸術館	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	32,586	(千円)
	公演事業	32,586 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	空中キャバレー2022	※中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	2,520
				実績値	—※
2	スカパン	9月30日、10月1,2日、10月6日、10月8日～10日	原作:モリエール『スカパンの悪巧み』 訳:内藤俊人 潤色・演出・美術:串田和美 出演:串田和美 大森博史 武居卓 小日向星一 串田十二夜 皆本麻帆 湯川ひな 細川貴司 下地尚子/小日向文世	目標値	892
		まつもと市民芸術館小ホール、松本城大手門 枳形跡広場		実績値	941
3	博士の愛した数式	2月11～16日	原作:小川洋子『博士の愛した数式』(新潮文庫刊) 脚本・演出:加藤拓也 出演:串田和美 安藤聖 井上小百合 近藤隼 草光純太 増子倭文江	目標値	764
		まつもと市民芸術館小ホール		実績値	1277

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
まつもと市民芸術館は、21世紀の松本にふさわしい文化芸術施設として、活力と潤い溢れる豊かな地域社会醸成のため、アーティストと市民が交流、協働し、多彩な創造活動を展開。その成果を国内はもとより世界に向けて発信するとともに、世界の優れた文化芸術を招聘し、鑑賞、体験、交流する芸術文化創造拠点施設を目指している。今年度も活動方針、重点的な取り組みを達成すべく、芸術監督の指針に沿った各クリエイションを実施し、事業番号2・3においては計画通りに実施できたとともに目標を達成することができた。
事業番号1 『空中キャバレー2022』: 新型コロナウイルスの収束を見ない状況にあつて、密を避けることが困難な作品の特徴を鑑みた結果、本作品の上演は中止とした。※(3) 効率性 も参照のこと
事業番号2 『スカパン』: 串田が上演を重ねたライフワーク作品『スカパン』は、串田が以前主催をしていた自由劇場時代の俳優陣の出演、さらに串田と小日向文世氏の息子たちとの共演と、世代を超えたキャスティングを実現させ、総監督の人的資本を活かした作品となった。令和4年度の重点的な取り組み(1)である「創造・発信型作品での県外ツアー」を実施することができた。
事業番号3 『博士の愛した数式』: 新進気鋭の作・演出家である加藤拓也氏、出演者のひとりに女性アイドルグループ・乃木坂46の元メンバーである井上小百合氏を迎えることで、10代・20代の若い観客層にもアプローチが出来、令和4年度の重点的な取り組み(3)「次代を担う若年層向けの企画」という側面を持つ公演にもなった。また、小川洋子原作への興味から公演や事前レクチャーに脚を運ぶ層もあり、演劇愛好者のみならず、新たな客層にもアプローチできる作品となった。松本の書店とも連動企画を行うと共に、公演時は書籍の販売を行ってもらうなど、地域活性化の一助ともなった。令和4年度の重点的な取り組み(1)である創造・発信型作品での県外ツアーを、この公演においても実施することができた。数々のクリエイターとの繋がりは、総監督退任後につながる大きな財産になる。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<b>○文化的意義</b> 事業番号2 『スカパン』では、松本以外に北九州芸術劇場、水戸芸術館、KAAT 神奈川芸術劇場の3都市での全8回公演を実現。当館でのクリエイションを知ってもらい、地方都市松本からの文化芸術発信の事例を紹介できた。 事業番号3 『博士の愛した数式』では新進気鋭の若手が作・演出家を手がけ、総監督が主演を務めた。総監督退任後の松本地域の舞台芸術を牽引し支える人材を育成し、地域に根ざした活動として結実させるステップともなり、地域にとって文化的意義のある公演となった。
<b>○社会的意義</b> 事業番号2 『スカパン』は、『FESTA 松本 2022』と名を打つ“松本産”の演劇のお祭りの期間で上演した。総監督は、未だコロナ終息が見えない社会状況の中「災難に見舞われ、あらゆる営みが困難な時にこそ平和を願い、生きる勇気を求めて」この芸術祭を計画し、優れた文化芸術を享受することのできる機会を期待する声に応えた。中心市街地・野外に特設ステージを設営し、市民の暮らしのすぐそばに豊かな芸術文化のある環境を創出。地域に文化力・活力をもたらした社会的意義は大きい。
<b>○経済的意義</b> 事業番号2 『スカパン』・事業番号3 『博士の愛した数式』のアンケート調査によると松本市外からの来場者が50%を超えている。両公演とも、来場者数が見込を上回り盛況であったことから、地域への経済的波及効果があったと認められる。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

【目標】 1、松本文化の定着、発信と劇場特性を生かした唯一無二の作品制作

【指標】 上演地、県外客の増加⇒ 上演実績のない地方上演。ツアーのない公演では地域の賑わい創出のためにも県外から誘客し、地元への経済波及効果を高めたい。

【結果】 ツアーのない事業番号1『空中キャバレー2022』において、前回の開催時の県外客より多い55% (1800人)の来客を目指したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり目標は達成できなかった。事業番号2『スカパン』では北九州、水戸という、これまでほぼ上演実績のない3都市での8公演を実現し目標を達成した。劇場を出て中心市街地の野外で公演を行うのは、「街を劇場に」という総監督によって示された当館の特性によるものでもある。

事業番号3『博士の愛した数式』では首都圏でも全8公演を上演し、劇場の知名度、そして松本芸術館のクリエイションのクオリティを知ってもらう機会を持つことが出来、目標を達成した。稽古の後半を松本で集中して行う事により、キャスト・スタッフが街に馴染み、より深い創作活動を行った。地方の専門劇場という特性を生かした唯一無二の作品制作といえる。

【目標】 2. 次世代クリエイターとのクリエイション

串田和美の総監督退任を控え、今後も創造発信を継続するために新たな才能を積極的に登用する。

【指標】 松本初登場の若手演出家を起用しクリエイションを行う。

【結果】 事業番号3『博士の愛した数式』では、舞台、TV、映画と様々なジャンルで活躍をしている新進気鋭の作・演出家加藤拓也を起用。目標を達成した。

【目標】 3、地域コミュニティと協働した事業展開による、地域活性化

化

【指標】 市民参加公演、企画の増加⇒市民連携をより深める。作品と連動したイベントを3作品とも行う。

【結果】 事業番号1『空中キャバレー2022』は街の飲食店や市民と連携して劇場空間にマルシェをつくるのが特色でもある当館劇場特性を生かせる作品となる予定であったが、中止となった。事業番号2『スカパン』の野外公演は、四柱神社の隣の広場を使用した事により、神社近隣の商店街にも楽屋での使用をするなど、地域のコミュニティとも繋がりを持ち、作品運営を行う事が出来た。『FESTA 松本』期間中に公演を行い、街中では市民による自主的な企画（フリンジ企画）も開催され、公共（当館）と市民の企画が連動し、イベントが偶発している期間となった。事業番号3『博士の愛した数式』では、小川洋子原作と言う事もあり、市内書店とも連動企画を行い、公演時は移動本屋として書籍の販売を行ってもらうなど、様々な面で地域との協力をを行いながら地域活性化を図ることが出来た。中止になった公演以外で目標を達成出来た。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 事業番号1 『空中キャバレー2022』:

『空中キャバレー』は、総監督串田和美の演出作品の中でも県内外問わず人気作である。市民参画に重点を置いた、地元のアーティストや店舗に協力を得た演出が特色の作品でもあり、再演への期待の声も多い作品であったが、観客と演者が入り混じり、一体化することがコンセプトな作品の為、演者/観客の距離を非常に近くせざるを得ず、また客席も流動的なために密を避けることが困難であるため、新型コロナウイルスの収束を見ない状況を鑑み、全公演を中止とし、代替公演として客席数を絞った形で『バッタの夕食会』(対象外公演)を実施した。

##### 事業番号2 『スカパン』:

2022年10月1日～10日(7回) → 9月30日(金)19:00、10月1日(土)15:00、2日(日)13:00  
10月6日(木)、8日(土)、9日(日)、10日(月・祝)全日16:30  
全7回上演と、概ね計画通りに進んだ。

##### 事業番号3 『博士の愛した数式』:

2023年2月11日(土)～16日(木) → 当初計画通り

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 事業番号1 『空中キャバレー2022』:

新型コロナウイルスの収束を見ない状況を鑑み、全公演を中止とした。

##### 事業番号2 『スカパン』:

屋外公演時は各公演ともに客席数を増やし対応を行った為、来場者数は当初想定892席から941席と増えているものの、フェスティバル期間にあって、当該公演以外にも多くの演目をご観劇いただきやすくする為、チケットの価格を交付申請書の設定金額より下げて販売した。その為、収入は交付申請書の収入予定額より実績報告時の額が97%と僅かに減っている。一方で、交付申請書の支出予定額より、実績報告時の支出額は120%と、20%の増となった。

交付申請後に、変更申請を行い、フェスティバル期間中に多くの観客層にアピールするため中心市街地の屋外でも上演した。このため、交付申請時には計上されていない屋外公演用の機材費・電源工事費・舞台設営に掛かる人件費等によって支出額が増えている。また、屋外公演期間に台風の接近が予想された為、急遽野外会場とは別に市内劇場を押さえ、舞台セットを仮組みして暴風雨時に備える対応をした。結果的には無事に野外特設会場での上演となったが、舞台設営費・人件費が掛かっている。

##### 事業番号3 『博士の愛した数式』:

新型コロナウイルス感染症対策のガイドライン変更と、見切れ席の解放を行う事により客席数892席から1277席に増やすことが出来、また、交付申請書以後に決定したキャスティング等を鑑みてチケット価格の見直しも行ったため、収入は交付申請書の収入予定額より実績報告時の額が180%と80%の増となった。一方で、交付申請書の支出予定額より、実績報告時の支出額は106%と微増に抑えられ、支出は当初計画通りに進んだ。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【視点1】まつもと市民芸術館の文化拠点としての資源

##### (1) 芸術監督

クリエイションは芸術監督である串田和美の指針のもと行われている。串田は、自由劇場主宰、シアターコクーンの前代芸術監督の後、2003年以降松本で活動を続け、「信州まつもと大歌舞伎」では市民キャストの起用、「空中キャバレー」では市民協働・地域密着の作品を作り続けている。2016年からは、長野県芸術監督団（演劇）や信濃毎日新聞メディアガーデン企画プロデューサーも務め、市内にとどまらず、また官民を超えて活動。まつもと市民芸術館もその活動により2016年地域創造大賞を受賞した。

・串田和美受賞実績：2007年第14回読売演劇大賞最優秀演出賞受賞。08年紫綬褒章、13年に旭日小綬章。15年シビウ・ウォーク・オブ・フェイム。

##### (2) 専属団体、提携団体

TCアルプ：松本に移住し、まつもと市民芸術館を拠点として活動している演劇集団。毎年1、2本彼らを中心としたTCアルププロジェクトを上演。串田はもとより白井晃、小川絵梨子、森新太郎など気鋭の演出家を招き、クリエイションを行っている。知名度を上げるとともに松本発の文化発信を担っている。

まつもと市民芸術館ボランティアの会：自主事業のロビー運営は外部委託せず、ボランティアの会が行っている。会員登録者数80名（令和5年3月31日時点）。新規入会したボランティアのための研修会開催のほか、職員とともに避難・消防訓練にも参加している。当日運営のほかにも、劇場スケジュールガイドの発送作業にご協力いただくなど、劇場を支えている。

#### ● まつもと市民芸術館自主事業公演サポート ※（ ）は前年度の実績値

活動募集演目数	活動公演回数	参加者数	延べ参加人数	公演1回あたりの参加人数
16 (15)	34回 (35回)	51名 (43名)	227人 (213人)	6.7人 (6人)

##### (3) 創造活動に関する建物設備等

当館には主ホール、小ホール、そして1800人収容可能な主ホールの舞台上に「実験劇場」というもう一つの劇場がある。舞台の中の劇場という他に類を見ない空間である。『空中キャバレー』など特設会場を設定できるのも、この主ホール舞台上のブレキシブルな使い方によるものである。

#### 【視点2】

##### (1) 公演、人材養成、普及啓発の企画内容、芸術性

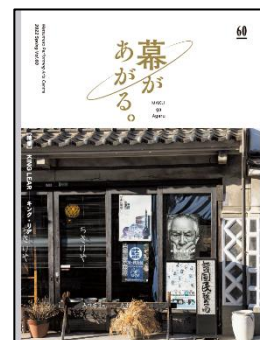
###### ① 公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色

日本でもトップレベルの演出家を招聘し、地域でワークショップ・クリエイションを行っている。

事業番号2『スカパン』、事業番号3『博士の愛した数式』とも(2)にて前述のTCアルプメンバーが出演している。地方劇場では新しい演出家と作品を作る機会に恵まれることは難しい状況のある中、当館でのクリエイションによって、地域アーティストが日本のトップレベルに触れる機会を提供している。

###### (2) 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

HPに過去公演をアーカイブ化している。Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSの活用もしているが、年3回発行している広報誌（各回7,000部発行）は単なる劇場の宣伝という枠を超えた文化情報誌として高い評価を得ている。その内容はWebにて電子版を閲覧できるようになっている。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### 【公演アンケートより抜粋】

#### 事業番号2『スカパン』

2015年のスカパンから、またスカパンを空中劇場で観れる日がくるとは。雨の中、役者さん方も大変だったと思いますが、本当にわくわくした時間です。ありがとうございました。串田さんの顔を見たら涙が出てきました。

20代、自由劇場の舞台を見に、毎日新橋へ足を運びました。まさか、地元松本で串田さん小日向の親子共演をみることになるとは、あの時、夢にも思いませんでした。感慨深いものがあります。

串田さんの総監督最後のスカパンであり、芸術館のこけら落としを観劇しており、今回、十二夜さんとの共演も楽しみにして、チケットを発売と同時に購入しました。十二夜さん、小日向さんの息子さんの共演も、自分の子供と同世代なので、感慨深いものがありました。武居さんを始めとしたアルプの役者さん、ずっと観ていて、ほっとする演劇は、まつもと市民芸術館だけです。

今や『演劇の町』となりつつある松本。私は、串田さんの創ってくださった、まつもと市民芸術館をこれからも誇りに思い、足を運びたいと思います。スカパンを上演していただき、ありがとうございました。隣でやっていた『ミスサイゴン』に負けぬ熱気を感じました。

#### 事業番号3『博士の愛した数式』

人物描写がひたすら素敵で感動的でした。舞台美術や谷川正憲さんの音楽も鮮烈。終幕の美しさは舞台ならではの情趣。只々滂沱しました。

文化の香り高い松本の街並みいたるところにこの公演のポスターが。松本の方々の文化芸術への深い造詣とともに串田和美さんが果たした貢献の大きさと、その高い支持を実感しました。

串田さんの最後のお芝居に立ちあえてよかった。『記憶』は頭だけでなく心にもあつく残ります。厚く暑く厚くありがとうございました！！

まさか語り手がこんなにも語ると思っていなくて、原作を読んでいたのではどうなるかとおもっていたのですが、本とはまた違った視点の物語だと感じました。砂があるってなんですか～！だから今回小ホールなんですか!?!すごい……。ガラスが光を反射してとてもきれいでした。砂って博士の零れ落ちる記憶なのかなあ、とか、砂時計を連想させますよね。すぎる時間の表現？歩くとキシキシ鳴るのが不思議と嫌ではなく、むしろ愛すら感じました。

公演時間が博士の記憶のテープと一緒に80分で感動した。細部まで本当にこだわられているなと思いました。

原作の静かで切ないかんじがとてすてきに出力されており、ふとしたところで涙ぐんでしまった。音楽や舞台装置も最初おどろいたがとてよかった

演出が面白かったです。舞台セットも砂が砂時計を連想させておもしろいなと思いました。

《分析》アンケートからも、総監督によるクリエイションが地域全体の文化力に貢献していると市民が感じていることが読み取れる。また、加藤氏による演出は、松本の観客にも鮮烈な印象を残した。

尚、両公演アンケート項目にある『芸術館で観たいもの(具体的に )』という設問においては、「空中キャバレー」との回答がそれぞれ3件ずつ計6件寄せられており、「空中キャバレー」という演目が市民に当館独自の公演として認知されていることが読み解けた。

【劇評】

事業番号2『スカパン』事業番号3『博士の愛した数式』両作がそれぞれ、演劇専門誌「悲劇喜劇」の2023年1月号/2023年5月号にて取り上げられている。

【新聞掲載】

公演名 風に描く～串田和美と演劇1 公演日 2022年 月 日～月 日 共催 信濃市 演劇 信濃市

掲載紙名 信濃毎日新聞 15頁(3版) 掲載日 2022年 9月 30日 金曜日

芸 紙 Screen



風に描く  
～串田和美と演劇

感染終息が見えない中で  
芸術文化 本質見つめる

小田原文彦(左)と大澤博幸(中)が演じる「風に描く」の一場面。串田和美(右)が演出している。

FESTA松本について、串田さんには「松本は、いろいろなことが起こる場所だ」と話している。

見た人の心に「事件」起こす

「スカパン」のカーテンコールで、串田さん(右)から出演者たちが登場した。

事業番号2『スカパン』の公演と合わせた形で、信濃毎日新聞の芸能文化欄では『風に描く』という連載が開始された。これは、総監督(昨年度までは芸術監督)を務めた串田和美のまつもと市民芸術館・松本市での業績を振り返る内容を含んだ芸能文化欄記者による連載で、任期終了の3月31日まで、全13回にわたる連載が続いた。

公演名 博士の愛した数式 公演日 2023年 2月 11日～2月 16日 共催 信濃市 演劇 信濃市

掲載紙名 信濃毎日新聞 夕刊(3頁) 掲載日 2023年 3月 29日 水曜日

エンタメノート

80歳串田和美 命輝かす

舞台「博士の愛した数式」の一場面

串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる「博士の愛した数式」の一場面。

「博士の愛した数式」は、80歳の串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる。串田さんは、数式を教える先生役で、大澤さんは、数式を学ぶ学生役で登場する。

串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる「博士の愛した数式」の一場面。

串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる「博士の愛した数式」の一場面。

公演名 FESTA松本 2022 閉幕(スカパン) 公演日 2022年 10月 1日～10月 10日 共催 信濃市 演劇 信濃市

掲載紙名 信濃毎日新聞 29頁(3版) 掲載日 2022年 10月 12日 水曜日

演劇・ダンス 街彩った10日間

FESTA松本 串田さん代表作「スカパン」で閉幕

感謝のあいさつ「松本だからできた」

「スカパン」のカーテンコールで、串田さん(右)から出演者たちが登場した。

串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる「スカパン」の一場面。

串田さん(左)と大澤博幸(右)が演じる「スカパン」の一場面。

↑ 事業番号2『スカパン』の松本公演千秋楽は、『FESTA松本』の終了という話題としては地域面でも取り上げられる街の話題となった。

← 事業番号3『博士の愛した数式』信濃毎日新聞 夕刊での『エンタメノート』欄。記者によるレビューが掲載された。



## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ●人材

松本市 100%出資の一般財団法人松本市芸術文化振興財団が運営をしている。同財団は、芸術館のほかに 4 つの劇場・美術館を運営しているが、人事異動は過去 1 回のみである。労働契約法の改訂に伴い、雇止め法理が定められ、職員の長期的なビジョン形成とクオリティの向上のため、5 年以上勤続する嘱託職員を本人の承諾を得て、無期労働契約へと転化させている。そのため今後は財団内の異動も行われ、各館のスキルの向上が期待できる。

現在の人員配置は、総監督 1 名、支配人兼事務長 1 名、プロデューサー 1 名、総務 2 名、貸館 5 名、企画制作 6 名、広報 1 名、票券 1 名、舞台技術 13 名である。（業務委託、派遣を含む）

職員のコンプライアンス、コスト意識の向上を図るため、各種研修を実施している。また、外部で開催されている人材交流プログラム・研修へ参加している。

臨時職員及び契約職員については、財団嘱託職員としての雇用転化を個人の能力や実績に応じて適宜行っている。

\* ボランティア組織に関しては、創造性のページを参照のこと。

#### ●財務

過去 3 年間は、安定して推移している。（令和 4 年度は決算中）

市から 1 億円の事業費と貸館収入と助成金で事業を行っている。

### 6. 財務状況

（令和 4 年 11 月 1 日現在）

（単位：千円）

項目	平成 31 年度 （令和元年度）	令和 2 年度		令和 3 年度			過去 3 年間の平均値		
			対前年比		対前年比	（増減）			
収入	計	670,235	598,188	89.3%	693,468	115.9%	95,280	653,964	-
支出	計	657,633	576,354	87.6%	621,642	107.9%	45,288	618,543	-
収益率 (%)		101.9%	103.8%	1.9P	111.6%	7.8P		105.7%	-

大規模な興行作品は、地域のプロモーター、メディアと共催する。共催の条件として一定比率の座席、チケットを確保し販売することで、3 万人を超える芸術館チケットクラブ会員へのサービスとなり、メールマガジンを発行することで共催公演も含めた販売促進にも繋がっている。また、貸館事業についてもチケット取扱いを積極的に行い、貸館事業においても手数料収入確保に努めている。

#### ●ネットワーク

・ 劇場音楽堂等の連絡協議会などに参加し、各館の制作状況を把握し、ネットワーク構築に努めている。

・ 信州大学人文学部とは定期的に連携事業を行っている。2021 年度は「エチオピアの伝統舞踊とアイルランドのコンテンポラリーダンスの現在」のワークショップをスタジオとリモートにて開催、今年度もダンスワークショップ & レクチャー 「エチオピアの伝統舞踊と対話から生まれるダンスムーブメント」を開催した。

・ 事業番号 3 『博士の愛した数式』 では、松本秀峰中等教育学校の貸切公演を実施した。同校では演劇鑑賞により想像力を育み、ポキャブラリーを増やす取り組みとして、毎年中学 1・2 学年を対象に公演鑑賞をカリキュラムに取り入れていただけている。鑑賞と合わせて演出家・出演者とのアフタートークも実施し、生徒との交流を図った。

#### ●施設

舞台機構（年四回）、照明機器（年三回）、音響機器（年二回）の定期メンテナンスも実施している。

また、今後、令和 7 年 10 月以降、主ホール・小ホールの舞台機構設備及び照明設備の制御設備更新工事を予定している。